

技術士包装物流会 月例研究会 講演要旨

日時	平成 29 年 7 月 26 日(水) ----- 18:00~20:00
場所	日本技術士会会議室 葦手第二ビル5階((フキデダイニビル)東京:田中山ビルの隣)
演題	「RFID を用いた商品管理 コンビニサプライチェーンでの利活用構想」
講師	大日本印刷(株) 情報イノベーション事業部 C&I センター IoT プラットフォーム本部 スマートサービス企画開発部第 1 課 ISO/TC46 国内委員会 本委員会 委員

内容	
----	--

1. 概要

今年 2 月に行われたローソン店頭での RFID 実証実験成功をきっかけに、人手不足に悩むリテール業界から RFID に対して注目が集まっている。経済産業省が考える RFID を使ったリテール業界の生産性向上計画の紹介や、2025 年に設定されている、コンビニでの全面採用がサプライチェーン上の各ステークホルダーに与える影響に関して説明された。

2. RFID の現況

- ・チップのデータ保障期間:1993 年当時は 10 年。現在は 50 年と計算されている。
- ・図書館の蔵書管理に普及してきている。
- ・波長帯は、UHF が主流になってきている。RFID の生産は、世界で 65 億枚/2016 年。100 億枚/2017 年の予想。現在、およそ 85 億枚/年のキャパがあると推定される。
- ・RFID は IoT センサーの最小単位:収集できるのは「ID」「タグが読み取られた時間、場所」
- ・RFID を取り巻く環境は 10 年前とは変化しており、性能向上、低価格化、流通業全体で人手不足(生産年齢人口減少による、継続的な省人化ニーズ≠コストダウン)など使用機運が高まっている。

3. CVS 対応の RFID

- ・UHF で実験が行われ、同時複数製品のタグの読み取り OK。2 月の実験は on metal 用タグで実験。CVS の顧客の購入製品は、平均で 2.5 個/1 回
- ・読み取り精度など使いやすさについてアンテナ設計やタグの検査システムなどで対応予定
- ・パナソニックとローソン が実証実験を進めている完全自動セルフレジ機「レジロボ」の早期実用化に期待がかかる。小売業界で導入が進むセルフレジ

4. 国としての対応

- ・小売りの生産性アップが急務の課題:米国のWalmartに比べ日本の小売りの利益率が低い
- ・RFIDを導入して人手不足解消も行いたい意向が強い。

その他、RFID標準化について、動向、コード体系、IoTプラットフォーム構想など幅広く説明。

以上:文責 研究会担当、住本